



### 19 二代豊川光長《富岳図巻煙草箱》一点

明治三十八年（一九〇五） 銀・四分一／薄肉彫ほか  
一〇・二×一四・〇×四・六

蓋表に色味の異なる四分一を組み合わせ、富士山とその中腹にたなびく霞を薄肉に打ち出している。冠雪した山容を数種類の鑿を使用して、山肌の凹凸を写実的に表現している。銀地の箱側面には片切彫で松樹が植わる丘陵が彫り出され、手前側面の方向から蓋甲板を見ると、あかたも丘陵から富士山を望むような構図となる。蓋裏には彼方より飛翔する鶴の群れが、蓋表の重厚な写実表現とは異なる、あっさりとした線彫のみで表され、その意表を突く対比がさらなる驚きをもたらす仕掛けとなっている。

二代豊川光長（二八五一〜一九三三）は江戸に生まれ、十五才で初代豊川光長に就き柳川派の彫金術を学んだ。明治五年（一八七二）、初代光長の娘と縁組みして養子となり、二代豊川光長を襲名した。加納夏雄系、海野勝珉系の彫金家が大勢を占めていた東京の彫金界で、両者の系統には依らずに独自の地位を築いたが、大正十二年の関東大震災に遭い死去した。

本作は明治三十八年九月に開催された東京彫工会の展覧会で宮内省に買い上げられた。箱には「銅賞牌」および「出品人 大西栄輔」と書かれた出品時の紙札が収められており、同会で高い評価を受けた作品であることがわかる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections